

# OSFだより

第109号 2011(H23)年8月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138  
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com  
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

## こっき こっか おも で 国旗と国歌の思い出

会長 岡本 正

6月の会館生・家族寮生交流会の席上、話の流れで留学生それぞれが母国の国歌を歌うことになった。人数は少ないが、国はまちまちで7カ国(中国・韓国・ベトナム・カンボジア・ラオス・モンゴル・日本)の人たちが集っていた。

順番に立って、大きな声でそれぞれの国歌を歌い、最後は理事長夫妻の「君が代」で終わった。

国歌を歌う姿は美しい。特に留学生は国を遠く離れた日本の地において、望郷の想いは人一倍強いだろう。母国を愛する気持ちもより強く感じているだろう。胸に手を当て、背筋を伸ばし誇り高く歌っていた。

日本人が積極的に国歌、国旗を取り上げなくなってから何十年たっただろうか。戦争に負けて、国としての誇りを失ったせいだが、悲しい異常な時代が続いている。

戦争を起こしたことへの反省の心はとても大事だ。次の代へも伝えていかなければならない。

しかし、日本国民としての誇りまで失ってはいけない。国を愛し、日本の国、国民を大切にすることを持たなければいけない。それが、国旗、国歌を大切にすることにつながるだろう。

「君が代」は大相撲の歌で、「日の丸」は国際スポーツ大会の応援旗だと誤解している子供がいるほどだ。情けない、悲しい現実だ。

国旗・国歌にまつわる思い出話を三つ、紹介しよう。30年前のことだが、私がアメリカ中部の地方都市セントルイスへ行った時のこと。休日に郊外のミシシッピ河のほとりにある公園へ散歩に出た。

大ホールに多くの市民が集まっている。私も入ってみたら、そのうちにアメリカ国歌の演奏が始まり、星条旗が上がりはじめた。

すると同時に一万人近くの市民が一斉に立ち上がり、姿勢を正して合唱を始めた。老若男女、さらに白人・黒人・東洋人・メキシコ人すべて、一人の例外

もない大合唱だ。

その迫力に日本人の私でも涙が出るほどの感動を味わった。指揮者はいないが、自然発生的にそろって大声で歌う。これこそが国歌だと、感銘深く聴き惚れた。すばらしい思い出だ。

現在日本では、学校での国歌斉唱と国旗掲揚は合法的と最高裁判所の判決が出ているが、それでもまだ反対している先生がいる。こんな国がほかにあるだろうか。まったく情けない思いだ。

先日中国の留学生に聞いたら、中国の中学校では毎朝国旗を掲揚し、全員で国歌を合唱するそうだ。

二つ目は1945年8月15日、日本が連合国側に降伏した時。これは私自身が驚いた思い出。3.4日もすると各所に韓国の国旗が翻った。私が初めて見た韓国国旗。日本在住の韓国系住民がひそかに旗を用意していて、日本の敗北(韓国独立)の日を待っていたのだ。

第三話。私が中学3年の夏、ドイツのベルリンでオリンピックが開かれた。ナチス、ヒットラーの全盛時代だ。

最後に注目を浴びたマラソンレース。先端切って入ってきたのが、韓国の孫選手。続いて第三位が南選手。

テレビのない時代、翌日どの新聞にも第一面に孫・南さんの写真が大きく出た。ところが、ソウルのある地方紙が胸の白の丸を韓国のマークにすり替えて出し大問題になる。

その地方紙は気の毒に即刻発行停止処分になったが、当時日本の支配下にあった人たちの心情を率直に主張したものだった。

それ程それぞれの国旗、国歌は民族存立のシンボルであり、国民団結の核なのだ。

今私は日本の国旗、国歌が一日も早くその価値を再確認されることを祈っている。



## ドン スアン フォン (会館生)

ベトナム(ハイズオン市)

千葉大学工学研究科デザイン科学専攻

### 留学理由および将来の目的



私は子供の頃、父にいろいろなところに連れられていくのが大好きでした。見たことない動物や植物やモノを見つければ、父にその名前や特徴、あるいはそれらが日常生活の中でどのような役割や働きをしているかを教えてもらったものです。外の世界は私にとっていつも楽しみを秘めている存在で、私の好奇心を刺激してくれます。父との遠足がきっかけで私は物事を観察し比較する習慣を身につけていきました。そしていつか外国へ行って、母国にないことを学び、そしてそれを持ち帰って自国の人々に伝えたい、そう考えるようになりました。

大学卒業後すぐに留学したかったが、なかなかチャンスがありませんでした。大学時代に専攻していた建築に関係する仕事に励みながら留学チャンスを探していたところ、ドンズー日本語学校のホェー先生に出会いました。先生は私にいろいろ教えて下さいました。言葉では表現しきれないのですが、心の底からドンズーの先生たちに感謝しています。先生たちのお陰で私の留学の夢が実現できました。

日本に来た時に私にはひとつの疑問がありました。それは「なぜ日本が発展してきたか」という問いです。その答えを求め来日した私ですが、3年経った今いくつかのヒントが見つかっています。

例えば、皆さんは建築家安藤忠雄のことを知っていますか。大学を卒業していない安藤さんが独自で研究・勉強し、実力で世に認められる有名な建築家になりました。この話を聞いて私は心を強く打たれました。あるいは、静岡にいた時にアルバイト先の社長が私に教えてくれた「おいしい料理を作るために、心の底から感じて、考えて、調理しなければならない」という言葉も忘れられません。安藤さんと社長の話から同じ「情熱」を感じます。

私は縁があって禅や剣道も体験しましたが、ここにもヒントがあります。禅は物事を冷静に考える手助けをしてくれますし、剣道も「論理が良くても実践してないではないか」の理念を生活に応用できます。

また、日本の3・4才の幼児が自分でご飯を食べたり、服を着たりするのを見て私は感動しました。なぜなら、それは同じ年頃のベトナムの子供ができないことをやっているからです。小さい頃の自立心の発達が立派な人格を育てると私は思います。

以上、自分の経験を通じて感じた日本の発展を支えたと思われる要素を挙げてみましたが、それらのすべてが結局「ヒト」に密接に関係しているように思われます。「ヒト」こそが「国」の発展の最大の原動力に違いないでしょう。

私は小さい頃にもうひとつ大好きだったのが家事のお手伝いでした。何かを頼まれて、それが出来た時の嬉しさはお菓子や新しい服をもらう時のそれとは倍も違います。私は魚よりも、釣竿と釣り方を教えてもらった方が嬉しいです。だから将来自分の仕事は自分で作れるようになりたいと考えています。可能ならば周りの人々の仕事も作ってあげたいです。

今一番やりたい仕事はベトナムでの「教育」の仕事です。基本的な考え方は日本のやり方を導入しつつ、ベトナムの状況に合わせてやるということですが、まずは保育園からと考えています。それと同時に技能工を育てる専門学校もやりたいです。ベトナムは工業立国を目指していますが、それを支える生産現場で働く技能工が不足しています。そして何よりも仕事に対する日本人の情熱を是非とも伝えたいと考えています。これを実現するには一人だけでは難しいので、私は同じ志を持つ仲間と組んでやるつもりです。

最後に、この場を借りて会長・理事長をはじめOSF財団関係者の皆様にお礼を申し上げます。OSF財団との出会いは私にとって大きな意味を持っています。会館での共同生活を通じて協力して生きる喜びを学ぶのみならず、各個人・文化と触れるチャンスが増え、相互理解が一層深まるきっかけにもなりました。なによりも家族のような温もりのある交流ができることが幸せだと思っています。

私にもささやかな夢があります。それは成功してOSFのような奨学財団をベトナムに設立することです。皆さん宜しくお願いします。

### 8月6日、広島祈念式典へ

佐野先生をはじめ、5人の留学生在が参加(金錦花・スリボン(ノイ)・蔡熙元・張笑・馬躍)



金 錦花 (奨学生)

中国 (黒龍江省)

千葉大学 工学電子機械研究科人工システム科学専攻

### 「広島平和祈念式」

2011年8月5日にOSF財団の佐野先生はキャプテンとして、私たち5人を連れて広島へ出発しました。当日は建築美で知られる日本屈指の名社であり、安芸の宮島にある厳島神社を見学することができました。厳島神社に近づいていくと、赤い大鳥居がすぐ目に映りました。背後の弥山の緑をもとに、瀬戸の青い海の中に浮かぶ姿がとても美しいです。回廊で結ばれた朱塗りの神殿も、潮が満ちてくるとあたかも海に浮かんでいるようです。観光客が行き交う町並みから少し足を伸ばすだけで、その美しい自然に触れることができる宮島に感心しました。

翌日の朝、広島市平和祈念式に参加させていただき、色々な貴重な体験をすることができました。会場は驚くほどたくさんの方が来ていました。平和公園内では、沢山の人が演説やピラ配りなどをしていました。祈念式では、8時15分に1分間の黙祷、そして平和への誓いをし、広島平和の歌を合唱して、閉式しました。テレビで原爆のことを見たことがありますが、現場ではより現実的で、あらためて命の尊さと戦争の悲惨さについて学ばせてくれる貴重な式典でした。

祈念式への参列のほか、広島平和記念資料館も見学しました。平和資料館では、被爆前後の広島の模型や、原爆で焼けた被害者の遺品などが展示されていました。その中で特に印象に残っているのは、皮膚が焼けただれた人形でした。な



ぜ、一般の人が、この様なひどい目に遭わなければならないのか、とても悲しく思えました。当時の品々を見ることができ、平和への思いを胸に深く刻み込んできました。今、私達がどれだけ平和な世の中で暮らしているのか、思い知らされました。

この後、みんなと一緒に原爆ドームに行きました。被爆から65年たっている広島ですが、爆心地に近い所に原爆ドームがそのまま残されました。実際に見ると、写真で見るとよりも原爆の悲惨さが伝わってきました。原形がわからないほどに大破した姿を見て、酷い様になってしまう原爆に改めて恐さを感じました。

広島の旅で、原子爆弾の威力や怖さ、そして戦争をせず平和に生きることの大切さを体験できました。原爆のおそろしさを一人でも多くの人に伝えていきたいと思いました。それに、私たちがこれからの未来を担って、核兵器のない世界を実現できるように、努力していきたいと思いません。

今回はこのような、広島へおとずれる機会をあたえてくださった事に本当に感謝しています。どうもありがとうございました。

蔡 熙元 (会館生)

韓国 (京畿道)

神田外語大学

国際コミュニケーション学科

### 安芸の宮島観光と広島平和記念式典について

8月5日、広島平和記念式典の参加のため、広島へ行った。その前に、広島に着いて最初に訪ねた場所は、日本三景の一つである宮島だった。船に乗って着いたところで、多くの鹿たちが私たちを迎えてくれた。そこは、今まで経験できなかったとても美しい場所だった。なぜ、宮島が日本三景の一つに指定されたか、その理由がわかった。海の中に立てられている赤い大鳥居や厳島神社は、私の嘆声をもらさせた。厳島神社は自然と人間の創造物が調和を成して劇的な壮観を演出するという理由で1996年、ユネスコ世界文化遺産に登録された。

次の日、私たちは広島平和記念式典に参加するため朝早くホテルから出た。多くの日本人や世界から多くの人々が式典に参加するため広島平和記念公園に集まった。多くの参加者が黙とうをし、原爆で亡くなった人々を追悼した。式典が終わって私たちは原爆ドームや島病院など平和記念公園の周りを見て平和記念資料館に行った。平和記念資料館で見た写真や記録は、私が想像していたものよりひどかった。1945年8月6日、広島にアメリカによってリトルボーイという原爆が投下された。7万人の住民がその場で灰に変わってしま



い、20万人の人々が放射能にさらされて死亡したが、これは広島人口の2/3にもなる数字だそうだ。展示されていた写真の中で町の姿は消えてしまって何も残っていなかった。最もひどかったのは、資料館の2階での生き残った人々の姿や生活だった。放射線にさらされて顔や体の一部の皮膚が溶けて無くなったり、剥けていたりした。生き残っても生きられない、苦勞しながら死んでいったのだ。生き地獄に他ならなかった。胸が痛くなって涙が出た。二度とこのような事件が起こってはいけない。二度と多くの人々が犠牲になってはいけない。私たち人間は、みんな貴重な存在である。

終わりに、式典での子供代表が言った言葉を紹介したい。「人間の力を信じている。人間は相手を思いやり、支え合うことができる。人間は、お互い理解し合い、平和への大切さを伝え合うことができる。私たちは、今を生きる人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動していくことを誓う。」

# トピックスTopics!

## 猛暑に負けるな！海へ！

8月10～13日、暑さがピークを迎えた頃、いつものようにみんなで海水浴を楽しんだ。延べ30人もの学生が参加。初めて海に入る学生もいた。

輝く太陽のもと、いい思い出ができたろう。



## OB来団

7月19日、寧唯西さんが来団。寧さんは奨学生だった崔建軍さん(H17 奨学生、中国)の奥さんで、財団の日本語教室にも熱心に通っていた。崔さんは今、北京の郊外で専門の建築関係の仕事に就いてがんばっているそうだ。

8月3日、朝鴻さん(H10 奨学生、中国)が奥さんと来団。朝さんは中国で天津大学の先生として活躍している。画家として各地の大学に出張し、教えてもいるそうだ。今回は休みをとって来日し、顔を見せてくれた。

8月15日、安玉発さん(H7 奨学生、中国)が来団。彼の奥さん(鄭培愛さん)も日本留学の経験があり、今度その思い出を綴った本を出版し、一冊持ってきて下さった。財団のことなども書いてあるそうだ。

中国の方、ぜひご一読を。

## バーベキューの夕べ

7月12日、奨学生の例会が理事長の家で開かれた。庭でバーベキューをしながら、夜が更けるまで

話がたえなかった。



## 会館生OB、集まる

7月10日、会館生のOB会を開催。

晴れ渡る青空の中、多くの仲間が集まって、賑やかな会になった。特に、タイからヴィサルット君(H15、会館生)がこの日のためにやって来てくれたのは嬉しかった。食べて、騒いで、水を掛け合って、

楽しい時間が過ぎていった。



ヴィルサット君とお友達



朝さんご夫婦



寧さん



チーさん・ミピンさん

8月26日、家族宿舎のチーさん、ミピンさん夫婦がベトナムに帰国。お名残り惜しいが、赤ちゃんと3人いつまでもお元気で！

## 赤ちゃん誕生

6月23日、唐文英さん(H17 奨学生、中国)に長女誕生。名前は費佳凜ちゃん。

7月13日、ダム君(H13 会館生、ラオス)に長女誕生。

8月8日、タン君(H14 会館生、ベトナム)に長女誕生。

♥おめでとう！健やかに育ってほしい♥